

09

心雑音について

医療の
小ネタ

健康診断の聴診で、心雑音を指摘された人はかなりの数に上ると思います。厳密に言えば、心雑音が全く聞こえないという事はありません。

例えば、川もまっすぐに流れていれば音を立てませんが、蛇行するとせせらぎの音を立てます。血液は、右房→右室→左房→左室と心臓の4つの部屋を次々と回りますから、それなりの音が聞こえるのは当然のことです。

ちなみに、心臓の雑音は強さに応じてLEVINEの1度から6度に分かれてますが、2度くらいまでは病的意義が無いことが多いので、無害性雑音や機能性雑音などと呼ばれます。それでも次に述べる心不全の予兆である場合がありますので、放置しておいて良いかどうかの見極めは必要です。



心臓は全身に血液を送るポンプとして働いています。しかし様々な原因により、体が必要とする血液を送り出せなくなった状態が心不全です。進行した心不全を元に戻すことは極めて困難ですが、注意信号が灯っている段階で見つけることが出来れば、心機能を回復させることはそれほど難しい作業ではありません。幸い現在では頼りになる薬も揃っています。

心不全の検査は色々ありますが、中で最も信頼できるのが心臓の超音波検査（心エコー）です。リアルタイムで心臓の動きを観察でき、心臓弁膜症の有無やその程度も正確に把握することが出来ます。

やや専門的な話になりますが、心不全の評価をする上で最も重要な指標がEF（心臓が拡張した時と収縮した時の差）です。それを苦痛なく短時間で測定できるのは、唯一心エコーだけです。

心エコーはあまり馴染みのない検査かも知れませんが、胸のレントゲンと同じように、年に1回はやっておいた方が良い検査です。定期的に見ておけば、わずかな変化でも見逃さずに済みます。

